

**■ 四半期連結貸借対照表**

科目	期別 当第2四半期 平成24年9月30日現在	前 期 平成24年3月31日現在	前第2四半期 平成23年9月30日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	15,011	15,363	15,401
固定資産	5,551	5,316	5,250
有形固定資産	4,243	4,253	4,254
無形固定資産	51	49	46
投資その他の資産	1,256	1,013	949
<b>資産合計</b>	<b>20,562</b>	<b>20,680</b>	<b>20,651</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	627	733	699
固定負債	641	627	607
<b>負債合計</b>	<b>1,269</b>	<b>1,361</b>	<b>1,307</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	19,803	19,857	19,818
その他の包括利益累計額	△519	△544	△475
新株予約権	10	6	2
<b>純資産合計</b>	<b>19,293</b>	<b>19,319</b>	<b>19,344</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,562</b>	<b>20,680</b>	<b>20,651</b>

**■ 四半期連結損益計算書**

科目	期別 当第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	2,416	2,437
売上総利益	878	781
販売費及び一般管理費	896	802
営業損益	△18	△21
経常損益	5	△26
税金等調整前四半期純損益	0	31
四半期純損益	△54	△5

**■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書**

科目	期別 当第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△123	△76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△178	90
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	△0
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,163	1,657

**平成25年3月期  
通期業績見通しを修正 (平成24年11月9日公表)**

平成25年3月期 第2四半期連結累計期間における売上高は、中国や欧州地域での販売が想定に届かなかったことに加え、為替の影響もあり、前回発表予想を下回ることとなりました。損益面では、原価率や販売費及び一般管理費を計画より改善することができたものの、売上高が想定どおりの伸びを示さなかったことから、営業損益、経常損益、四半期純損益はいずれも前回発表予想を下回ることとなりました。当社グループを取り巻く事業環境は、第3四半期以降も、中国経済の成長鈍化や欧州地域の景気低迷等の状態が継続することが想定されます。こうしたことから、平成25年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正することといたしました。

前期から当期にかけて経営基盤の強化に注力し、利益を創出できる企業体質への変革が確実に進んでいます。今後は売り上げ拡大に軸足を移し、株主の皆様に対して安定的な利益還元を行えるよう努めてまいります。

(百万円)	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
前回発表予想	5,620	170	230	110
今回修正予想	4,890	10	50	△70

**■ 株式の状況**

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,787名

**■ 株主メモ**

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

**株式会社精工技研 広報課**

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401 (直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp

**ごあいさつ**

株主の皆様におかれましては、平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

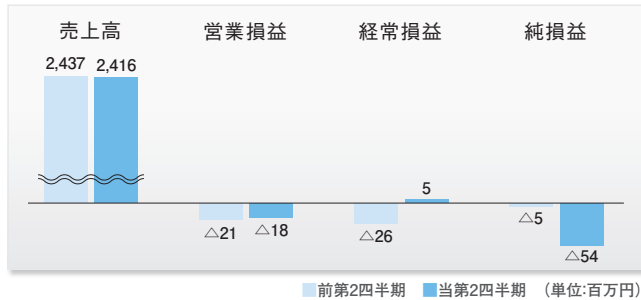
当第2四半期連結累計期間は、引き続き長期経営計画「マスタープラン2010」に基づき、既存顧客の維持、取引拡大と新規顧客の開拓に取り組みました。また、新たな社内プロジェクトを立ち上げ、事業課題の明確化と戦略構築の共有化を図りました。今後とも、安定的に成長することのできる力強い企業体質を確立すべく一層努力してまいりますので、ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

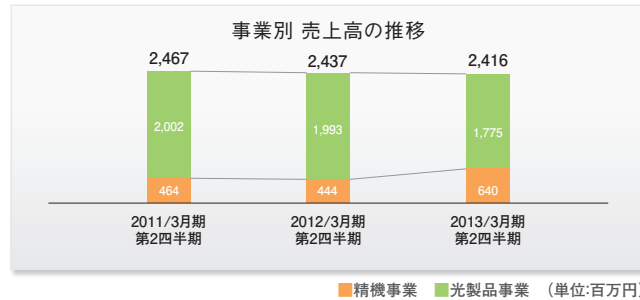
**上野 昌利**

## 当第2四半期（累計）の業績 / 事業別の概況



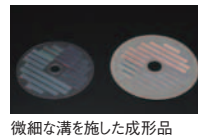
当第2四半期連結累計期間において、当社グループは、光ディスク成形用金型をはじめとする各種金型や薄肉成形品、高耐熱レンズ等を主力製品とする精機関連と、光通信網の敷設に用いられるコネクタ等の各種部品や、その部品を製造するための機器等を主力製品とする光製品関連の両セグメントにおいて、受注拡大に向けて、顧客とのコミュニケーション強化と新技術、新製品の開発に取り組みました。また、部門長を中心とするプロジェクトを社内立ち上げ、事業課題の明確化とこれを解決するための戦略構築、その遂行状況の共有も図りました。

販売面においては、既存顧客の維持、取引拡大と新規顧客の開拓に取り組みましたが、円高の影響等から当第2四半期連結累計期間における連結売上高は2,416百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。損益面においては、原価率が前年同四半期より改善したものの、営業損益は18百万円の営業損失（前年同四半期は21百万円の営業損失）となりました。経常損益は、業務受託料等の営業外収益が増加したほか、為替差損が前年同四半期より減少した結果5百万円の経常利益（前年同四半期は26百万円の経常損失）となり、前年同四半期より改善することができました。四半期純損益は、54百万円の四半期純損失（前年同四半期は5百万円の四半期純損失）となり、前年同四半期から減少いたしました。これは主に、前年同四半期に固定資産売却益等の特別利益59百万円を計上したことによりです。



### 精機事業 超精密金型 / 精密加工 / レンズ

業界最高水準の金型技術と精密加工技術で、お客様の製品開発と生産性向上を支援します。



微細な溝を施した成形品



スマートフォン用レンズ

当第2四半期連結累計期間はブルーレイディスク成形用の金型の販売が前年同四半期を上回って推移しました。その他、精密金型技術や微細転写技術を応用し、医療関連やバイオ関連等への新たな市場に向けて精密な成形品を供給するための市場調査や技術開発、顧客開拓に取り組みました。一方、スマートフォンや携帯電話に搭載されるカメラ向けの高耐熱レンズの売り上げは、中国の顧客に向けて堅調に拡大しており、引き続き顧客開拓に注力しながら、より高画素なレンズの量産化に向けた開発を進めています。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は640百万円となりました。

### 光製品事業 接続部品 / 光部品 / 製造機器

光通信ネットワークの高速・大容量化を支える高精度な技術・製品を提供します。



ファイバアレイ



光コネクタ研磨機

光通信部品に関する検査・測定器の有カメラであるDATA-PIXEL SAS社の株式を49%取得し、持分法適用会社化いたしました。今後は相互の技術や設備、人的ネットワークや情報といった経営資源を有効に活用し、両社の企業価値の向上に努めていく計画です。販売面では、単価の下落圧力が続いていることや、採算性の低い一部の製品の製造を中止したこと、ユーロ安の影響で同地域に対する円換算後の売上高が大きく減少したことなどに伴い、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,775百万円となりました。

# Topics

## トピックス 1

### DATA-PIXEL SAS社の株式譲り受け

2012年8月、当社は、フランスにあるDATA-PIXEL SAS社の株式を49%取得し、持分法適用会社化いたしました。同社は、光通信用部品の端面形状測定器市場において世界トップクラスのシェアを保持。当社と杭州精工技術有限公司は、当社との間で販売代理契約を締結し、同社の測定器をアジアの光通信市場に向けて積極的に販売



契約調印の様子

してまいりました。今後は、製品開発面や製造面でも関係を深め、互いに保有している技術やノウハウ、経営資源を有効的に活用し、長期にわたって両社の企業価値の向上を目指してまいります。

## トピックス 2

### 当社の「RF光変換装置」が、ロンドンオリンピックで活躍



当社は、電波を光ファイバに乗せて伝送するRoF (Radio on Fiber) 技術の応用により、テレビのスポーツ中継向けに「RF光変換装置」を開発。従来の中継装置に比べて約10倍ものエリアをワイヤレスカメラでカバーできるため、より臨場感のある映像をリアルタイムで配信することが可能になりました。

NHK (日本放送協会) 様にも採用されたこの装置は、ゴルフ中継をはじめ、マラソンや駅伝などのロードレース中継にも用途が拡大。今夏のロンドンオリンピックでも使用され、選手たちの躍動する姿を日本の視聴者に届けました。当社は今後も、社会の進歩発展に役立つ製品を創り続けてまいります。



RF光変換装置